

IT技術集まる街に

有明高専 グループ法人化し事業開始へ

大牟田をコンピュータ技術などが集まるシリコンバレーにしようと、有明工業高等専門学校出身で佐賀大学の大学院生の野口卓郎さんを中心に有明高専のグループが立ち上がった。今年中に法人化し事業を開始する。野口さんは「多機能型端末のスマートフォン、タブレット向けのソフト（アプリ）開発など有明高専の学生の技術を生かし、大牟田を盛り上げるためにIT技術が集まる街になれば、さらに活性化するのはないかと考えプロジェクトを立ち上げました」と語る。



試作品の開発に挑むメンバーたち

野口さんは有明高専電子情報科、専攻科を経て佐賀大学大学院に進学。有明高専在学中から高専学生や大学生向けのベンチャービジネスコンテスト、コンピューターの回路設計コンテストなどに応募し上位に入賞するなど活躍していた。佐賀大学大学院に進学後も佐賀のビジネスプランコンテストに応募し表彰されるなど活躍している。

まずはスマホ向けのアプリ開発から

野口さんは昨年初頭から有明高専の学生の優秀な頭脳を商店街や地域に必要なコンピュータソフト開発に役立てて、いざは大牟田にIT産業を集積できないかと考え構想をまとめていた。企画名は「ASKプロジェクト」。有明高専、佐賀大、協力している企業の木村情報技術株式会社のアルファベットの頭文字から名付けられた。

プロジェクトには有明高専電子情報工学科の石川洋平准教授の研究室の四、五年生の学生が参加。まずはスマホ向けのアプリ開発に取り組み、試験段階までこぎつけた。今年はお資者を見つけて株式会社化か、NPO法人化を目指す。

野口さんたちにアドバイスをおくる石川准教授は「もともと、アメリカのシリコンバレーも近くにスタンフォード大学があり大学が近くにあったからこそ産業集積することができました。このプロジェクトに参加しているメンバー一人ひとりがそのころのスタンフォード大

の学生よりも劣っている点はなく、むしろ勝っているといっても過言ではないでしょう。これまで有明高専が大牟田の皆さんに貢献してきたこと。大牟田の皆さんが有明高専を誇りに思ってもらっていただいていう基盤があります。そういった点で大きく言えばIT産業の集積地となる資格はあると思います」と力を込める。

さらに「大牟田の地理的要因もあげられます。佐賀大、福岡、久留米、熊本などの大学など高等教育機関が集まっているところから大牟田は、だいたい一時間ぐらいの圏内のほぼ中央に位置しています。研究者が集まりやすいという利点も集積地となりうる条件のひとつです」と石川教授。

学生の技術を発揮できる場所を整える

野口さんは「有明高専に進学したときは就職希望だったのですが、それが五年生になり専攻科への進学として大学院と入学当時の思い描いたものになりましたが、やはり大牟田の街をにぎやかにしたい。できることといえば、私の学んできた技術、有明高専

の学生の技術を発揮できる場所を整えることです。これまではビジネスプランを発表し、高評価を得て終わりということが多かったですが、これからは私たちが立てたビジネスプランを実践することが求められると思います。ようやくスタートライン。今年は夢に向かって、多くの方に教えていた。大きな前を向いて進んでいきます」と話した。

学生はプロジェクトに引き続き参加

プロジェクトに参加している五年生の大塩悠貴君、近藤一輝君は今年、専攻科に進学する予定だ。大塩君、近藤君は「今年もプロジェクトには引き続き参加し、アプリ開発など様々なアイデアを実現できるように頑張っていきたいと思います」。就職する五年生の眞崎瑛里さんは「プロジェクトに参加したことで普通の学校生活では体験できないこと、貴重な経験でした。卒業まで残り三か月ですが出来ることを頑張りたい」とそれぞれ意気込む。

四年生で将来は専攻科進学を考えている、川添浩太郎君、國崎恒成君、野田武司君は「今年も多くのア

プリを開発できるように、そして範囲を昨年よりも広げられるように頑張ります」と目を輝かせた。